第３回総合計画審議会（基本目標３部会）

― 議事録（要旨）―

■日時：令和６年９月３０日（月）１４：１５～
■場所：糸島市役所　会議室４０１

（出席委員）
三谷部会長、野村委員、坂井委員、辰巳委員、花田委員、月川委員、財津委員

（事務局）糸島市
経営戦略部　中村部長
企画秘書課　合六主任

【議事概要】

■　部会
４　協議事項
➢ **基本目標３　みんなの命と暮らしを守るまちづくり**

・ 進行を三谷部会長へ
以下、三谷部会長による議事進行

■ 委員　○ 事務局

➢ **政策（１）災害対策　施策①地域の防災力の強化**

■　辰巳委員
何を審議すればよいか。

■　三谷部会長
この素案と文案が妥当であるかどうか、これでよいかどうかを審議していただきたい。

■　辰巳委員
防災という切り口だと後ろのページにも出てくる。それを見ずにここだけ審議はできない。

■　三谷部会長
防災に関係するのは、１ページ目と２ページ目で、１ページ目は、地域の防災力を強化するためにどうすればいいか、２ページ目は、防災・減災基盤の整備ということで防災減災に対する設備等

に関すること。３ページ目は消防力の強化。４ページ目は救命・救急の話。５ページ目が、地域の防犯力、犯罪等の話。６ページ目が、交通安全の対策。最後の７ページ目は、重点課題の問題。ほかの施策と異なり、基本目標３の政策に対する施策ではなく、重点課題が前提として決められていて、その中にある、防災・減災対策ということで、市民一人一人の防災力が高いまちいとしまプロジェクトという施策がある。１ページ目が関係するとしたら、最後の７ページ目になる。そういう認識で、交互に見ていただいてもいいと思う。

まず１ページ目の施策①地域の防災力の強化について、糸島市では自主防災組織自体が連絡網になっている。自主防災組織とは、各行政区が自主防災組織の組織図のようなものを市に毎年提出している。行政区長、その下に組長や三役がいる。役員の連絡網を自主防災組織であると提出されているのが糸島市の現状。それを自主防災組織であると市民が認識していない実情がある。そこが１つ問題だと思う。自主防災組織が、実体化してないことを課題として素案の中に入れていただきたい。形骸化しているという表現でもいいかもしれない。これは糸島市に限ったことではなく、他市町村でも同じである。総務省から自主防災組織を提出するように依頼があり、市の防災担当課で作成されるが、知らない間に名前が入っているということがある。自主防災組織の組織表は、充て職で表が作成されていて、実際何をすべきか書かれてないのが自主防災組織の実態である。その現状を少しずつ変えているところではあるが、現状としては、自主防災組織自体が形骸化していると思う。

■　坂井委員

防災ハンドブックは、自主防災組織の現状を前進させるための材料として、まちづくり委員の意見として、「防災ハンドブックが周知されていない、活用できていない」と出されているのか。

■　三谷部会長

防災ハンドブックは、様々な防災や災害に関する一般的な知識をまとめたものであり、市民向けの雑誌になっている。そのため、自主防災組織とは異なる。洪水が起こったらどうするか、ハザードマップはどうするか、災害情報はどこから手に入れればいいか、避難場所はどこにあるか、避難のときに持っていくものは何があるか等が記載されている。

■　月川委員

糸島は今自分がどこにいるのかわかりにくい。旅行者が被災した時に、今自分はどこにいるのかがわかるための環境づくりはこの施策の取組にはならないのか。実際、交通事故を起こしたときに瑞梅寺川という看板が読めなくて困った。バス停も全部日本語表記であり、志摩は信号も少ない。今どこにいるかがわかりづらい。これは防災には関係ないか。

■　三谷部会長

防災の方に入れるべきであると思う。最後の７ページに入れるべきではないか。施策①は地域の防災力のため、地域に特化されているイメージで審議していただきたい。

■　月川委員
　住んでいる人がメインになってくるということか。

■　三谷部会長
　はい。

○　事務局
　自助共助の部分である。自主防災組織は平成 24 年くらいに全行政区で立ち上げていて、その中で、防災訓練や防災講座等を自主防災組織ごと実施した。東日本大震災の後に、一斉に作成した。災害が起きたら実施するが、なかなかそれが続いていかないということで形骸化してきている。地域によっては災害が多く、危険性が高いところと、そうではないところがあり、地域間で防災意識や防災活動に差が生じている。

■　野村委員
　自治会と自主防災組織はほとんど同じか。

○　事務局
　はい。

■　野村委員
　そうすると先ほど指摘があった、自主防災組織の形骸化の裏側にある話として、自主防災組織がこういう機能を発揮します、というところを前面に出して理解を深めれば、自治会への加入を控えている人も意識が変わるといった、副次的な効果もあるのかなと思う。日本は災害が多いため、何か起こったときの不安をみんな抱えている。

■　三谷部会長
　そうあって欲しいという思いはあるが、実態は全くない。自治会そのものに入りたくない、煩わしいと言われる。

■　野村委員
　私は東京から移住してきたが、糸島で初めて自治会に触れて驚いた。私は自治会に加入しているが、加入を嫌う人は多いのかなと思う。ただ、先ほど申し上げた通り、一方でみんな防災意識は不安を抱えている部分がある。単なる任意の寄り合い組織に加入するかしないかというような枠組みではなく、命を守る行動としての自治会の位置付けが強くなればと考える。

■　三谷部会長
　そういうあるべきである。

■　財津委員

私が住んでいる地域は、ほぼ100%自治会組織に入っている。地域によって差があると書いてあるが、具体的にどの地域が防災意識が高くてどのような活動をしたかを紹介してはどうか。自治会に入っていると月１回は必ず集まって掃除をしたり、イベントをしたりしているため、他の自治会活動の情報があれば、何か集まりがあったとき、提案することもできる。これは取組になると思うが、防災意識の向上というところで自治会活動の取組の紹介があってもいいと思う。

■　三谷部会長

文面について、課題に「自主防災組織間や校区間において」と書いてあるが、ここは、「地域間において」にした方がいいと思うがいかがか。防災意識に差があることと、自主防災組織の話のことが市民委員会からも出ているため、「自主防災組織の形骸化が進んでいる」や、もしくは、「自助共助としての自主防災組織を活用した自助共助の取組が、地域によって差がある」等、そういう文言を１つ入れていただきたい。そうすると、基本方針として❶で、「全地域に同じような取組を推進するのではなく、地域の状況に応じた防災活動を推進します」が生きてくると思う。それから、基本方針❷のところで気になったのは、「地域の防災士が」というところを主張されたいのか、「防災士の活用」をということか。

○　事務局

防災士の活用を入れたい。市で防災士の資格取得の取組を進めているため、防災士・防災マイスターを育成していきたい。防災訓練については防災士や防災マイスターが中心となって、地域の訓練を組み立てていく、講座を実施する等、そういう防災意識を高めるような取組を、地域で実施してほしいというのが市の考え方である。

■　三谷部会長

防災士と防災マイスターについて、防災士が地域の中で作られている防災士で、防災マイスターは、それは１個上の形で今育成されているというふうに理解している。

○　事務局

市が防災マイスターを認定していく登録制度を実施している。併せて、防災士の資格取得費を助成している。

■　三谷部会長

施策の基本方針の❷と❸は同じような記載に見える。これをあえて分けたというのは、災害発生時ということか。

○　事務局

発生前の予防が❷で、❸は災害が発生したときの体制の確立である。

■　三谷部会長

自主防災組織ができればそれは災害で使うと思うがいかがか。

○　事務局

そうではあるが、先ほど言われたように名前だけの自主防災組織ではなく、実際に動ける組織としたい。

■　三谷部会長

❷のところの「体制を構築し、」の後に「平常時から」という文言を付け加えた方がより明確になるのではないか。

■　花田委員

地域の防災士は、自主防災組織を支援する、入るという形になるのか。自主防災組織の中で地域の防災士がリーダーになる考えはないのか。自主防災組織中で引っ張っていく人がいないところが問題だと考える。

○　事務局

そういう意味である。

■　三谷部会長

地域によっては、地域の防災士が自主防災組織の中に入る。

○　事務局

地域の防災士が自主防災組織に入ることと、自主防災組織の中で自主的に防災士になっていただく。そういう取組みを現状でも進めている。そしてその方が中心になって、防災訓練や講座を行いながら防災の意識を地元から育んでもらいたい。

■　三谷部会長

自主防災組織は区長や組長が入っているため、任期で変わっていく。変わっていかない人たちとして防災士、防災リーダーがほしい。

■　花田委員

組織の中に必ず１人入り込む体制を構築していくということか。

○　事務局

はい。

■　花田委員

今はその体制がないということ。

○　事務局

危機管理課の職員が、講座や訓練に参加しているが、職員だけではできないため、防災意識が高い方を育成して、周りに広めていただく。それが、先ほど言われる形骸化しないように、常に防災意識を持ってもらうというのがこの取組である。

■　月川委員

避難訓練、防災と聞いても楽しそうではない。ニュースで見た自治体では、避難訓練の後にシェフが料理をふるまうような楽しいイベントが実施されたと見て、避難訓練をもっと楽しくしていく取組があってもいいと思う。

■　三谷部会長

地区防災計画の中でそういう企画をしてくださいという話をしている。例えば担架を使って人を運ぶ防災体育会等。防災訓練は避難所に逃げ込むような訓練だけでなく、自分たちで計画を立てることや、考えることもある。みんな一斉の時間に避難訓練をするから参加できないため、１週間期間をとって好きな時間に参加して、避難所まで行くのに何分かかったか報告してくださいとか、そういった活動を実施していこうという話は、地区防災計画の中で立てていこうという話をしている。主な取組の中に、「地区防災計画の策定・更新等による自主防災組織の実効性の確保」により、まちづくり市民会の意見をすべて包括できると思う。地域の特性を知る、小中学校や企業との連携は全部地区防災計画の中に入れるべき項目である。

■　財津委員

防災士の資格は取得するのが高い。市民が資格を取得したいとき、助成している市町村があるが、糸島にはないのか。

○　事務局

助成している。

■　財津委員

防災マイスターは市が認定するのか。

○　事務局

はい。校区から、防災マイスターの推薦を受けた方で、決められた研修に参加いただく。それと地域での避難経路図の作成に協力するとか、そういった方々を、防災マイスターとして認定していくということで、今取組みを進めている。

防災士の補助金は１万２千円。

■　三谷部会長

防災士講座の種類によって費用は全然違う。福岡市は、１ヶ月ぐらいかけて講習会をやる。福岡県だと１日半ぐらいかけて講習してそのあと試験がある。その試験費用が１万２千円。

■　辰巳委員

施策の基本方針の❶について、現状と課題のところで、自主防災組織が実質的にあまり機能してない地域もあるということで、それを容認しようというのが❶。❷❸は自主防災組織の充実ということで、ここは自主防災組織ありきの話になっている。そうするとこの❷のところで、自主防災組織が機能しないところは、どうするのかという方針が抜けている感じがするがそれはいかがか。

■　三谷部会長

❷と❸が非常によく似ている。これを合わせて、❷のところに、「充実した自主防災組織の構築を図ります」、そういう文言をいれるのはどうか。

■　辰巳委員

施策の基本方針として、自主防災組織が弱いところも強化していく方向にするのか、自主防災組織にはあまり皆さん参加してなくても、災害時は、一部の方々が全員を誘導できる、救うような準備をしておくのか、その方向性、基本方針を決めないといけない。

■　三谷部会長

自主防災組織を充実という意図がある。

○　事務局

この施策は地域の防災力強化のため、地域で自主防災組織を中心として、災害時にもそういう避難体制とかそういうものができるように、自主防災組織を強化したいのが一番の考え。

■　辰巳委員

そうだとするとこの❶は書きぶりが、誤解を招く感じになっている。「地域の状況に応じた」というところと、あまり活動しない地域は、別のことを考えようといったニュアンスになっている。

■　三谷部会長

「自主防災組織を活用した」と追記できないか。

■　辰巳委員

全体的に自主防災組織を強化していくという方向性であればそういう記載内容の方がいいと思う。

■　三谷部会長

全地域に同じような取組を推進するのではなく、地域の状況に応じ、自主防災組織を活用した防災活動を推進します。という書きぶりでお願いする。

■　財津委員

自主防災組織と消防団の関係について、前住んでいたところは、消防団が水害等の災害があったときには、ここでいう自主防災組織のような形で活動して、火災も消防団が活動されていた。緊急時は消防団が活動していた。自主防災組織と消防団の２つ組織があるのは違和感がある。

■　三谷部会長

自主防災組織の中に消防団が入るケースもある。自主防災組織の方が幅広いく、守る範囲が広い。消防団は消火活動のみになることが多く、災害までカバーしてくれる方が珍しいかもしれない。

■　財津委員

イメージからすると、災害は多く起こるわけではないので、消防団組織を充実して何かあったときに対応させるような組織体系を作った方がいいのではないか。

■　三谷部会長

自主防災組織は災害が起こる前の、防災に関する考え方やリテラシー、防災訓練であるとかそういったところまでカバーする。どちらかというと、災害が起こることは少なく、逆にその平常時の活動がすごく重要。それで❷と❸の施策の基本方針を分けていると思う。❷に「平常時」という言葉をいれてもらう。❸は災害時の話。取組は（１）と（２）でいいと思うが、地区防災計画の説明が少し欠けているので、皆さんに理解いただけるか気になる。

■　辰巳委員

自主防災組織があまり機能しないところ、自分たちは関係ないというような人が多いところであるとすると、インセンティブがないといけないと思う。掛け声をかけても機能しないのではないか。

■　三谷部会長

糸島市では地区防災計画の策定という、災害リスクコミュニケーションをやっている。地域をまわりながら、住んでいる地区の危険個所等を伝えている。

■　辰巳委員

リスク意識を醸成するような、意識高めるような取組をされている。

■　三谷部会長

例えば新興住宅だから、平和で災害がないと思っていても、専門的にみると場所によっては危険であると伝えたり、壁が実際に動いているところを見せたりして、インセンティブを高めるようなことをしている。

■　月川委員

防災士は足りているのか。

■　三谷部会長。

大体行政区に１人か２人はいるはず。ただ、最初に防災士の取組を始めたとき、資格を取得しないといけないということで当時区長だった人が取得している行政区もある。高齢化が進んだことと、実際今のような防災に対する考え方はなく、やむを得ず行った人達もいるため、200 人いる防災士のうち何人が実働できるか疑問がある。

■　花田委員

主な取組の（１）で、地域の防災士が中心となった自主防災組織等の訓練等と書かれているがイメージとしては防災組織等だけか。これは地域での訓練の支援ということをイメージしていると思うが、いかがか。地域の防災士が中心になり、地域を巻き込んだ訓練が必要だと思う。この記載だと、地域や地域住民が入っていない。

■　三谷部会長

地域での訓練か、防災士や自主防災組織だけの訓練か。

○　事務局

地域での訓練である。

■　三谷部会長

花田委員提案のとおり、地域の防災士や、自主防災組織が中心となった地域の防災訓練等の支援と記載いただきたい。

■　辰巳委員

地域によってはほぼ住民 100％が防災組織に入っているところもあるということか。

■　三谷部会長

住民 100％ではない。自治会ということではなく、自治会の役員の人たちが、自主防災組織のメンバーとして登録されている感じ。

■　辰巳委員

支援というのは、通常行政が支援すると言うと、補助金、お金を出すということだと思うが、ここもそういう理解でよろしいか。

○　事務局

訓練をするときの消耗品などの必要経費を補助している。物品だけではなく、職員の応援、人的支援というのもある。

➢　**政策（１）災害対策　施策②防災・減災基盤の整備**

■　三谷部会長

糸島市は防災行政無線という市が出す無線と、地域毎に流している無線と２種類あるところがある。そこを混乱している方もいらっしゃる。防災行政無線は個別受信機があるため、個別受信機を通せば必ず情報が入るようになっている。

■　辰巳委員

家の中にスピーカーがあって音が聞こえてくるのか。

○　事務局

はい。防災行政無線が聞こえないところは、個別受信機を通して、外で流れている内容と同じ内容が聞こえる。

■　辰巳委員

停電でも聞こえるか。

○　事務局

電池式であり聞こえる。

○　事務局

ＳＮＳ等あらゆる手段を使っていて、防災行政無線の内容が聞き取れない場合は電話で確認できる方法もある。そういう多様な伝達手段を使って情報を提供している。

■　三谷部会長

それはもうすでに導入されている。主な取組の（１）に書いてある、サービスの積極的な導入はすでにされている。ただこれを知らない人が多いため、取組としては周知が必要である。

（２）は難しい。自主防災組織の活性化等による、という文言をつけるのか、疑問がある。避難行動要支援者の避難支援等関係者の確保という話。それと、個別避難計画の策定は、これもほぼやろうとしていること。糸島市は個別避難計画を作ろうとされている。

○　事務局

はい。

■　三谷部会長

（４）の「原子力防災訓練を毎年実施することによる避難計画の実効性を向上」というのは、この施策、基盤整備に当たるのか。これは、原子力災害を踏まえた総合的な防災訓練を毎年実施することによる避難計画の実効性を向上として、1ページ目に付け加えるべき項目ではないかと思う。

■　花田委員

確かに、原子力という視点も大事であると思うが、市民意見をみると、きちんと理解してもらっていないというところがある。どこに当てはまるかわからないが、原子力の関する教育・啓発をしていくことが必要。誤った知識では、何か起きたときにはパニックになるというところで、普及啓発が大事。原子力防災訓練を含めた訓練が毎年あっているのかと思う。

■　野村委員

糸島市全域が30キロ圏内なのか。

■　三谷部会長

違います。

■　野村委員

地域によっても対応が変わってくるため、地域ごとの防災計画に反映する上で、濃淡が出てきてもいいと思う。

■　三谷部会長

西側の人は30キロ圏内の近くのところに避難する計画になる。30キロ圏外の人でも、原子力災害に携わらなくてはならない人が当然出てくるはず。自然災害と原子力災害で分けているのかとも考えたが、原子力災害に関する取組は１ページ目の施策に入れる。

○　事務局

前期基本計画は施策①地域の防災力の強化のところに安定ヨウ素剤の配備に記載等、原子力防災訓練のことも書いている。

■　三谷部会長

原子力だけではない。「原子力を含む総合的な防災訓練を」という文言にして、「毎年実施することによる避難計画の実効性向上」として施策①地域の防災力の強化に持ってくる。

○　事務局

「原子力防災訓練を含む総合的な防災訓練を実施し」とする。

■　辰巳委員

この施策は基盤の整備であるが、全体的にソフト系が多い。ハード整備は何も書かなくてよいのか。ハード面、社会基盤の整備も重要だと思う。

■　三谷部会長

私もそう思う。社会基盤施設の老朽化が糸島市は進んでいる。橋とか道路が、どんどん古くなって、そういうところに災害が来ると壊れて被害を受けると思う。能登の地震がまさしくそうだった。「老朽化した社会基盤の維持管理」を取組の中に入れていただきたい。

○　事務局

施策の基本方針の中に国土強靭化地域計画の記載がある。この中に橋の耐震化や河川のこと、水道下水道管耐震化も入っている。

■　三谷部会長

取組にも、そういう文言を入れていただきたい。方針は方針として、記入していただく。耐震化だけでなく、老朽化した施設の健全なる管理・維持管理等も必要である。場合によっては砂防が崩れることもある。道路も怖い。文言を加えて入れていただきたい。

○　事務局

基本目標６の快適で住みよいまちづくりにも道路や橋の長寿命化がでてくる。

■　三谷部会長

橋や上下水道を含む、社会基盤整備という言葉を入れていただきたい。

➢　**政策（２）消防・救急の充実　施策①消防力の強化**

■　三谷部会長

消防団員の減少を課題にいれなくていいのか気になった。消防団の若い担い手が、昼間いないというところは大きな問題であると感じる。

施策の基本方針❷に先ほど言われた、「自主防災組織と連携して」といった文言も、災害に備えてということであれば、入れるべきかと思う。

取組について、施策が消防力の強化だから「消防力の強化」と書かれているが、これでいいのか。例えば、課題のところは、「気候変動や建物の大規模化、複雑化」よりも、「建物の老朽化等により火災が延焼する」とかそういうふうな話ではないのか。大規模化・複雑化が、被害が拡大する

こととなるのか。大規模商業施設で火災が起こるとそういうような被害が高まるという意見も確かにあると思うが。

■　野村委員

昔の家は木造で建蔽率も今と全く異なり建物が敷地内にぎちぎちに建てられていた。あれは明らかに危険で私もどちらかというとそちらの危機意識の方が必要だと思う。

■　坂井委員

大規模化というより老朽化。

○　事務局

大規模化っていうのは糸島にそぐわないため、老朽化とする。

■　辰巳委員

現状と課題の②の「地震や風水害」は関係あるのか。地震で火災というのは、阪神淡路大震災のことはあるものの、②の問題意識がよくわからない。「生活様式の変化、建物の機能化によって対応が困難な災害の発生」とは、何が問題なのか。

■　三谷部会長

例えば床上浸水したりしたとき、機密住宅になると土砂が中に入りこんで出せないとか、そういうふうなもので風水害というイメージがある。それと地震はまた別だと思う。

○　事務局

この施策は、消防の活動、公的な活動をイメージしている。消防本部が行う仕事。

■　辰巳委員

火災だけはないのか。

○　事務局

火災とか風水害での対応とか、河川の堤防決壊の対応であるとか。自助・共助・公助があるうちの、公助の部分の消防活動に対する施策。先ほどのご意見で自主防災組織を含めるべきではというところがあったが、ここはあくまでも公的な消防活動、災害活動における取組。

■　花田委員

消防団員の減少というところを市民意見からの現状と課題として書いてあるが素案にないのは、足りているという考え方なのか。

○　事務局

そこは先ほど言われたように若手の消防団が昼間いないという問題がある。昼間は福岡市で働く人も多いため、実際に、火災になったときに動くことができる消防団員の減少というのはあるというふうに思う。

■　三谷部会長

課題の中に入れるべきだと思う。

■　花田委員

前期計画にも入っている。

■　辰巳委員

現状と課題の①②には、どうしようもないのが含まれている。先ほどの意見であった、延焼の危険性があるとか、消防団員が足りない等、それが課題じゃないか。

■　三谷部会長

対応が困難な災害の発生ではなく、これまでに経験したことないような被害が発生することが想定される、とかそういう言い方。今まで考えていないような被害が発生したり、家の中から抜け出せなかったり等、被害であり、災害ではない。

○　事務局

想定していない被害ということ。

■　三谷部会長

「想定してないような被害が発生する恐れがあります。」という書きぶりになる。今まで予測していた火災が違う方向に動く、消防団員の減少により消防組織が衰えている、といった課題をいれていただきたい。基本方針の中に花田委員が言われたように、消防団員と自主防災組織との連携を行うことによって対応しようという話に繋がる。

■　財津委員

糸島市の職員は、消防団員に加入する規定はあるか。

○　事務局

規定はない。自主的に加入する。

■　三谷部会長

地域の中で、消防団が組織されるため糸島市の職員であっても福岡市から通われている人達がいるわけで、そのルールは適用されない。

■　財津委員

ただ、住んでいる人は大体自主的に入っているという理解でよろしいか。

○　事務局

自主的に加入している。地域によっては消防団が少ないため、地元で働いている、役所や農協、自営業の方は誘われる可能性が高い。

■　三谷部会長

取組の中の（２）のところに消防団や自主防災組織を入れてもいいかもしれない。「自主防災組織などの他機関との連携強化による」とするのはどうか。訓練となると違うかもしれないが。

○　事務局

ここでは、災害時に消防署と消防団が連携して訓練を実施することを書いている。

■　三谷部会長

今実施していないのか。

○　事務局

実施している。

■　三谷部会長

取組に書かれていることは、全部実施したという評価をしようとして書いている意図を感じる。また、（３）は課題や基本方針に当てはまらない取組。施設の話がいきなり出てくる。「消防力を強化するため、消防団員の減少を防ぐための対策を講じる」はいかがか。

○　事務局

はい。消防団の車両についても更新計画に入っている。

■　辰巳委員

主な取組に消防団を増やすというのは入れないのか。

■　三谷部会長

消防団自体のあり方を考える時期にきているのではないか。例えば、地域や行政区のみで取組むのではなく、行政連携のような形で広い校区単位で取組む等。今でも校区単位で活動されているのが実情だと思う。

○　事務局

ご意見としていただく。専門部会で協議する。

➢ **政策（３）防犯・交通安全の推進　施策①地域の防犯力の向上**

■　三谷部会長

感染症の対応は救急になるのか。

■　花田委員

感染症が新しく発生した時の取組は国で進める。

○　事務局

感染症は、国から統一的な基準・方針が出るため、市単独でできることではない。

■　花田委員

市民の理解、周知・啓発が大事だと思う。

■　三谷部会長

周知・啓発は取組の（３）で書かれている。これしか方法はないのか。意識の向上と周知に関すること。救急車をたくさん導入できたらよいが、難しい。救急車の効率的な運用というところで、（１）で通信指令システムが整備される。

■　月川委員

介護タクシーを増やすことはこの施策とは違うか。

○　事務局

介護タクシーは福祉の関係の施策。

■　月川委員

持病が悪化したら介護タクシー、今までない病気は、救急車と言われたことがある。

○　事務局

それが取組（３）の中で救急車の適正な利用に関する周知・啓発になる。まちづくり市民委員会の中でも、救急車を呼ぶかどうかの判断が難しい、＃7119 の周知等の意見があるが、全部（３）適正な利用に関する周知啓発に、含まれてくると思う。

➢ **政策（３）防犯・交通安全の推進**

■　辰巳委員

防犯カメラは公共施設中心でいいのか。犯罪が起きるのは、人気がない場所であり、公共施設とかは違う場所ではないか。

■　三谷部会長

犯罪が多発しているエリアを分析されているか。犯罪が多発しているところは糸島にはそこまでない気がする。

■　月川委員

志摩の方は、訪問販売系の業者が訪問する事案が出ている。

○　事務局

防犯カメラは警察とも関係することであり、犯罪が多いような繁華街等には設置している。商店街の組合で設置をされる際に警察から補助が出る、ということはあるものの、公道設置する際は、警察との協議が必要。多数設置することは難しい。警察から指示があり、協議した上で防犯カメラを実際に設置する場合はある

■　辰巳委員

公共施設を中心にというのは、公共施設の中ではなくて、公共施設の敷地で道路上をとれるようにということか。

○　事務局

はい。例えばコミュニティセンターの外の運動場やトイレ、公園とかに防犯カメラを設置している。

■　三谷部会長

子どもだけではなく、高齢者が犯罪に巻き込まれるケースも気になる。糸島は、高齢者等が犯罪に巻き込まれるケースは多くないのか。

○　事務局

多いと考えられる。

■　三谷部会長

そこに対する、取組を入れてはどうか。取組が５つあるため、取組（３）と（４）をまとめて「防犯灯と防犯カメラの設置による防犯力の向上」等にする。その上で、課題の中にも高齢者等が犯罪に巻き込まれるケースが増えている実情がある場合はそれも課題の中に入れて、取組の中に高齢者等への指導とする。福祉の取組になるかもしれない。

○　事務局

部会からの意見として調整する。

■　三谷部会長

ぜひ入れていただきたい。高齢化が進んでおり、今からますます増えそう気がする。

➢　**政策（３）防犯・交通安全の推進　施策②交通安全対策の強化**

■　辰巳委員

ここもハード整備が書かれていない。歩道の設置やガードレールの設置等難しいのであれば、グリーンベルトの設置もある。

■　三谷部会長

ハード整備は必要だと思う。市民からも意見が出ているため、歩道やカーブミラー、道路標示に関する交通安全施設の充実化。取組（３）と（４）まとめるのはどうか。（３）は飲酒運転撲滅に関する啓発か。

○　事務局

交通事故も含めている。

■　月川委員

自転車も怖い。

■　三谷部会長

ドライバーだけではない。

■　坂井委員

自転車専用道路は福岡市内でやっているが糸島では進んでいない。

○　事務局

今矢羽根の表示を進めている。

■　坂井委員

車道混在型だけではなく、自転車専用通行帯も必要だと思う。

■　三谷部会長

志摩から芥屋の道路等、新しい道はできるが、狭い道路もあるから難しいところもある。

○　事務局

既存の道路を拡幅して整備するというのは難しい。市道には整備していくが、国道・県道は要望していくしかできない。

■　三谷部会長

糸島特有の問題で、山手の方の雑草とか木を何とかして欲しいというところもある。

取組に施設関係も入れて５つにまとめていただきたい。

■　野村委員

課題のところで、週末交通量が増加しており、ほとんどサンデードライバー。対策が難しい問題ではあるが、課題意識が必要。スピードを出す人がいて危険である。市民も不安を持っている人は多いと思う。

■　三谷部会長

週末の観光客等の運転のマナーについても加えていただきたい。

➢ **重点課題２　防災・減災対策　施策　市民一人ひとりの防災力が高いまち“いとしま”プロジェクト**

■　辰巳委員

重点課題のため、他の施策と住み分ける必要はなく、基本目標の再掲でもいいという認識でよいか。

■　三谷部会長

はい。

子どものことが書かれているが、若い人たちが防災に関する取り組みの意識が高くない。子どもは学校の教育のなかで防災教育を学んでいる。高校生、大学生、20 代 30 代ぐらいの若い人たちが防災に対する意識が低い方が多いような気がする。取組の（４）に少し含まれるかもしれないが、そこの世代への取組も必要と考える。

■　辰巳委員

取組の（１）防災教育コンテンツは、ホームページを前提していると思うが、今の若い人は、ホームページはみない。ＳＮＳを活用した方がよい。

■　三谷部会長

防災のリテラシーを上げるためのコンテンツの重要性を（１）で表している。それだけではなく、防災情報を的確に渡す、正しく知って、備える、避難する、そういう意識のための、災害情報を適切に周知するための手段も追加いただきたい。

■　辰巳委員

２ページ目の主な取組の（１）がそれにあたる。再掲という形で記載いただきたい。

■　野村委員

日本は災害が多い。今も能登で災害が起きている。ボランティアで被災地に行った経験がある人とない人で全然違う。若い人の防災意識が高くないのは、そういう経験の場が少ないからだと思う。市としてできるかどうかわからないが、橋渡しができないか。

■　三谷部会長

市職員は派遣している。その職員の講話はどうか。

■　野村委員

私も東日本震災の時に、ボランティアを経験したが、本当に大変だとわかった。そういう経験を、若い人に教育の一環としてやることは考えられないか。

■　三谷部会長

「災害を通した実体験を通して、防災教育のあり方」等キーワードをだす。

■　財津委員

例えば、糸島市は災害が起きたとき、市がバスを出してボランティア派遣等しているか。福岡市は出している。

○　事務局

ない。社会福祉協議会がボランティア団体を連れていくことはしている。社会福祉協議会がボランティアセンターを立ち上げる役割を担っている。

■　三谷部会長

全施策について検討した。部会３を終了する。

（基本目標３部会　終了）